



四万十川ニュース Vol.27

中村河川国道事務所 平成20年8月29日

蛍湖まつり



「森と湖に親しむ旬間(7月21日~31日)」のイベントとして、13回目となる「蛍湖まつり」(蛍湖まつり実行委員会)が、7月27日(日)に中筋川ダムで開催されました。当日は、約1500人が訪れ、アンパンマンショー・うまいもの市・ダム見学会などが行われ、大勢の人たちで賑わいました。時間雨量180mmの大雨の凄さを実感出来る雨量体験機や土石流3D体感シアターなども設置され、大雨の凄さや土石流の恐ろしさを体験することが出来ました。

佐田沈下橋ロウソク点灯



一昨年から開催されている佐田の沈下橋ライトアップが今年も8月13日(水)に行われました。ガラス瓶などに入れたロウソクを橋の両側に並べ、午後7時ごろから点灯。徐々に橋全体が明るくならない幻想的な風景が浮かび上がると同時にカメラマンがしきりにシャッターを押していました。この日は大勢の家族連れが訪れ、昼間とは違った沈下橋の風景に魅了されていました。

四万十川・入田元池シンポジウム

8月23日(土)四万十市入田集会所で、地域の未来像を語ろうと「第6回 四万十川・入田元池シンポジウム」が開催されました。この日は約60人が参加し、四万十川地域の活性化策や将来像についての意見交換を行いました。



はじめに西日本科学技術研究所の東氏から「アユの四季—四万十川アユ物語」と題して講演があり、続いて、中村河川国道事務所工務第一課松山より四万十川自然再生事業の事業説明を行いました。入田地区の人たちの思い切り発言もあり、「さまざまな企画をしながら頑張っていきたいと思う」と決意を述べました。



四万十川に関するお気付きの点や、お問い合わせは中村河川国道事務所 計画課までお願いします。

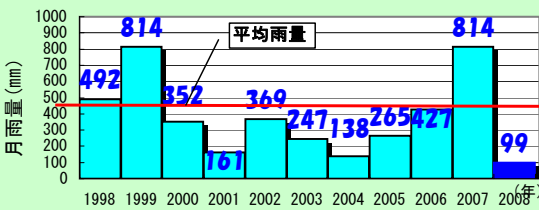
TEL0880-34-7301

「四万十川ニュース」は、中村河川国道事務所HPにも掲載しています。

<http://www.skr.mlit.go.jp/nakamura/index.html>

7月の四万十川の様子

流域平均雨量(7月)

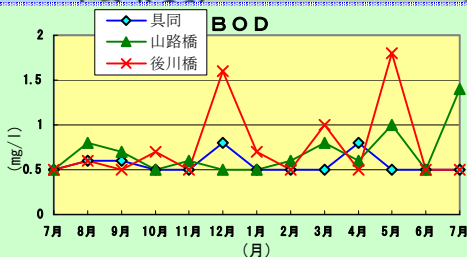


四万十川流域平均雨量7月雨量(99mm)
過去の10年平均は408mmで平年の約24%程度の雨量です。
※四万十川流域平均雨量について
具同上流域の雨量観測所(箇所)が流域に占める支配面積の比率により算出した雨量です。

四万十川の水質

具同観測所
(7月8日測定)

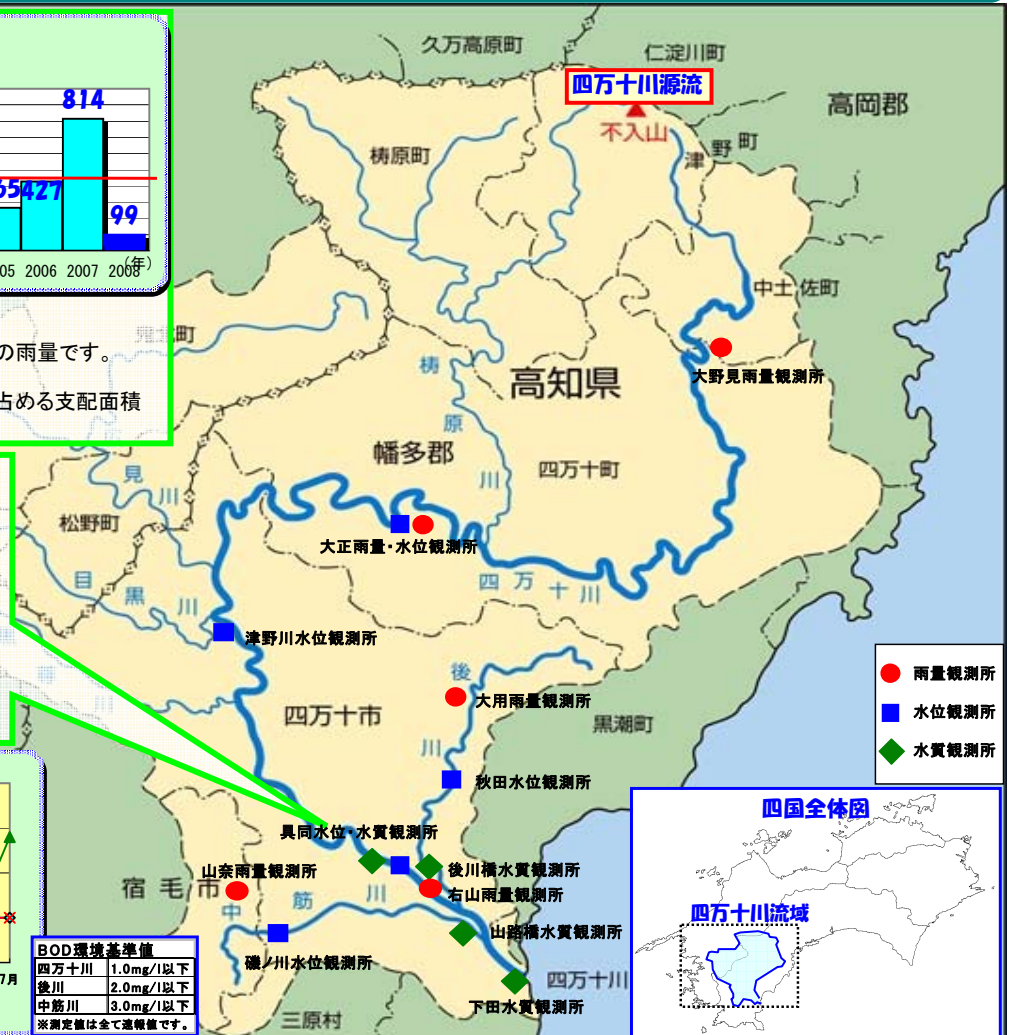
水温 26.9℃
pH 8.0
BOD < 0.5 mg/l
SS 2 mg/l
DO 9.0 mg/l
大腸菌群数 1700MPN/100ml
流量(日平均) 62.3m³/s



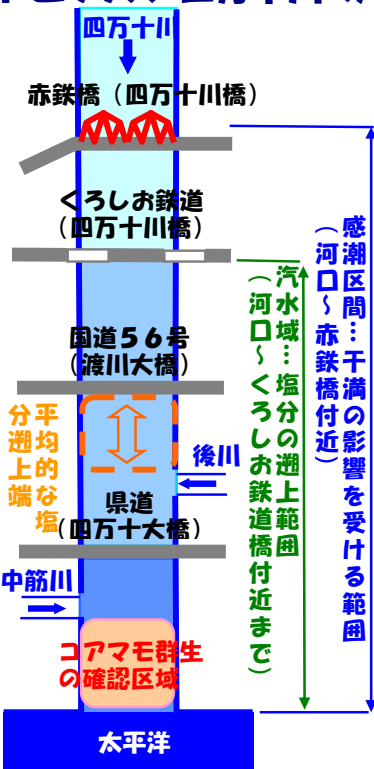
BOD環境基準値

四万十川	1.0mg/l以下
後川	2.0mg/l以下
中筋川	3.0mg/l以下

※測定値は全て連続値です。



トピックス: 四万十川の汽水域

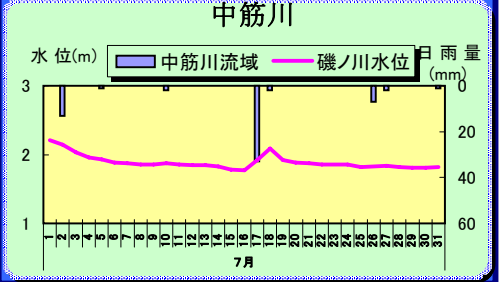
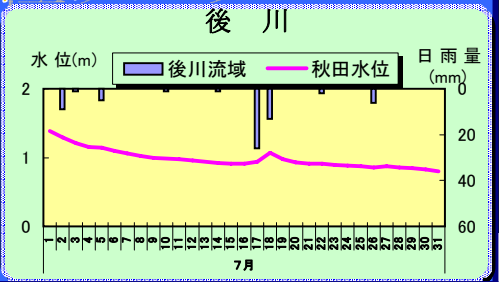
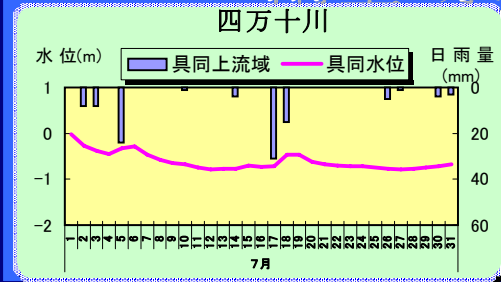


四万十川下流には「汽水域」と呼ばれる淡水(河川水)と海水が混じり合った水域が広がっています。これまでの調査で、塩分の遡上が確認される地点は、平均して国道56号(渡川大橋)の少し下流あたりです。雨が1ヶ月以上降らない場合、くろしお鉄道橋付近まで塩分が遡上するケースも見られ、中規模程度の出水があった場合には、下流の県道(四万十大橋)付近まで遡上端が押し戻されているようです。

普段の塩分遡上は概ねくろしお鉄道橋から四万十大橋の間で、出水や干満の影響を受けながら進退を繰り返していると推測されます。

四万十川の汽水域は、幻の魚アカメや194種類もの魚類が確認され、また、様々な稚魚の生息場となっているコアマモが生育するなど、大変重要な環境として注目されています。中村河川国道事務所では良好な環境を保全するため、これからも、環境調査を実施します。

雨量・水位データ



四万十川の水位・雨量について

- ・水位・雨量情報電話サービス (0880-34-7321:4回線)
- ・PCサイト「川の防災情報」 <http://www.river.go.jp/>
- ・携帯サイト「川の防災情報」 <http://i.river.go.jp>

で確認出来ますので防災等に役立ててください。